

子供の 事故情報 データベース 活用ガイド



製品開発
学術研究の
参考に

この冊子は、東京都のwebサイト「子供の事故情報データベース」を活用していただくためのガイドブックです。

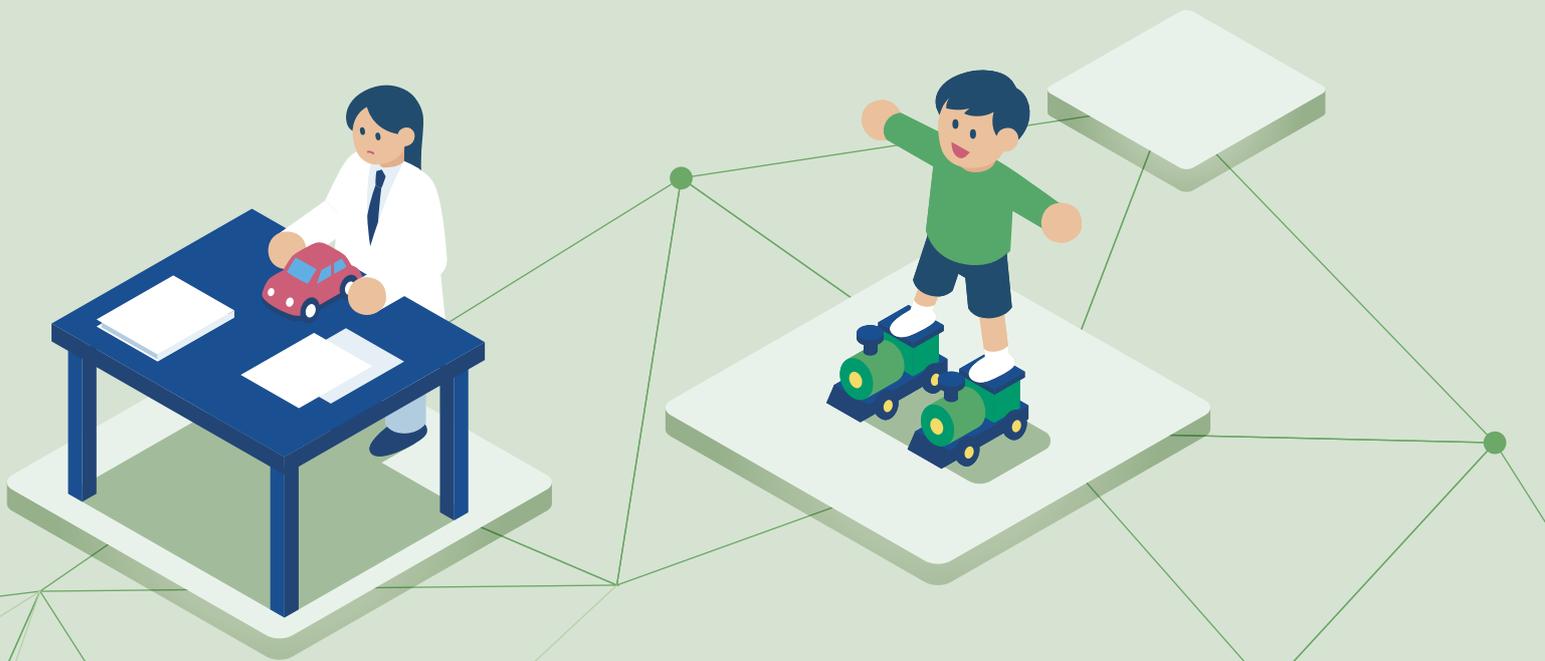
WEBサイト



子供向け製品・サービスを提供する事業者や、
子供の傷害予防についての研究に従事する方などが、
商品開発や学術研究等に活用できるよう、
できるだけわかりやすくデータベースの使い方を
解説するとともに、想定される利用シーンに応じた
活用例を紹介しています。

データベースでは事故の発生傾向や状況を
グラフで視覚的に確認できるほか、
年齢や発生場所ごとに事故事例を検索することができます。
利用料は一切かかりません。

子供の「事故予防」にぜひお役立てください。



第1章 子供の事故を未然に防ぐために

P 4

第2章 データベースの操作方法

P 6

第3章 目的別活用例

①製品企画や開発等での活用

P12

②子供向けイベントの企画・運営での活用

P14

③子供の事故予防に係る研究現場での活用

P16

第4章 データベースを活用したサービス開発事例

P18



お願い

記事や論文を引用する場合

参考文献として子供の事故情報データベースの記事・論文等の情報を引用する場合、参考文献には原典をご記載ください。

また、本データベースを活用して論文執筆や製品開発を行った際は、東京都子供政策連携室にご一報いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

報告先：S1110301@section.metro.tokyo.jp

報告内容：氏名、所属、執筆論文や開発製品が特定できる情報（タイトル・名称・リンク等）

子供の事故を未然に防ぐために

1 子供の事故予防についての考え方

子供の事故は、家庭や保育施設、学校、通学路など、身近な場所で発生し、日常生活で使う製品にも思わぬ事故のリスクが潜んでいます。

事故を未然に防ぐためには、子供の成長や行動特性に応じて「変えられるものを変える」視点で危険な場所や状況を改善し、子供を取り巻く環境・ルール・仕組みの見直しを行うことが重要です。

これには、製品設計やインフラ整備、教育活動、政策立案などを通じて、社会全体が連携し協力して取り組むことが求められます。

図1が示すように、乳幼児の救急搬送人員数は例年、概ね横ばいで推移しています。同じ年齢層で、同様の事故が繰り返し発生していることから、過去に起きた事故を分析し、予防策を開発・実践していくことが重要です。

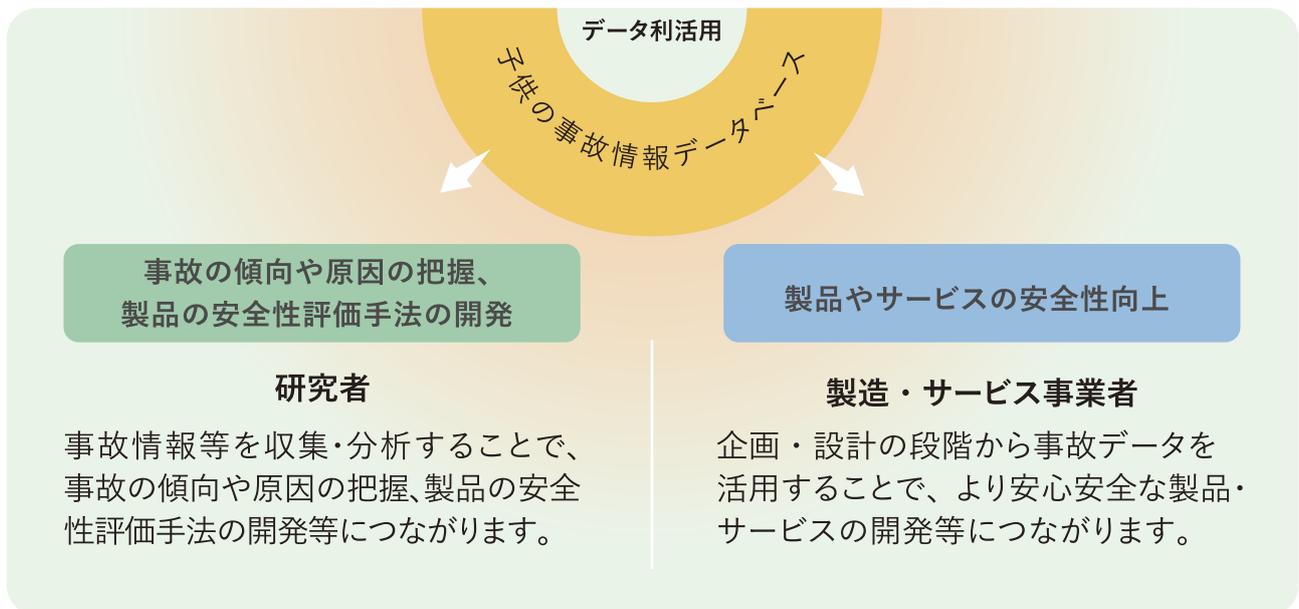
図1 0～4歳までの乳幼児の事故の年別救急搬送人員



データ出典：東京消防庁 救急搬送データからみる日常生活の事故

2 データ利活用の必要性

子供の事故を防ぐためには、実際に発生した事故の情報・データを収集・分析し、そこから得られた知見を活用することが極めて重要です。科学的なエビデンスに基づくことで、より安全な製品の開発等に繋がります。



3 掲載情報・データ

「子供の事故情報データベース」では、これまで各機関が個別に公開していた事故情報を一元的に集約することで、一つの検索フォームで横断的に検索できる仕組みとしています。

本データベースでは、主に以下の団体と連携し、情報・データを登録しています。



そのほか、ニュース記事や学術論文、ヒヤリ・ハット情報も掲載しています。

基本操作

データベースの4つの主な機能を紹介します。

ホームページトップ画面

トップ画面から機能を選択します。



A

事故情報を見る

統計データ等を
グラフで
わかりやすく
閲覧できます。

▶ P.7

B

事故情報を探す

個別の事故情報に
ついて、種別や
キーワード、
AIによる検索等が
可能です。

▶ P.8

C

ニュース・論文を探す

ニュースや
学术论文を
キーワード等で
検索できます。

▶ P.10

D

情報ライブラリ

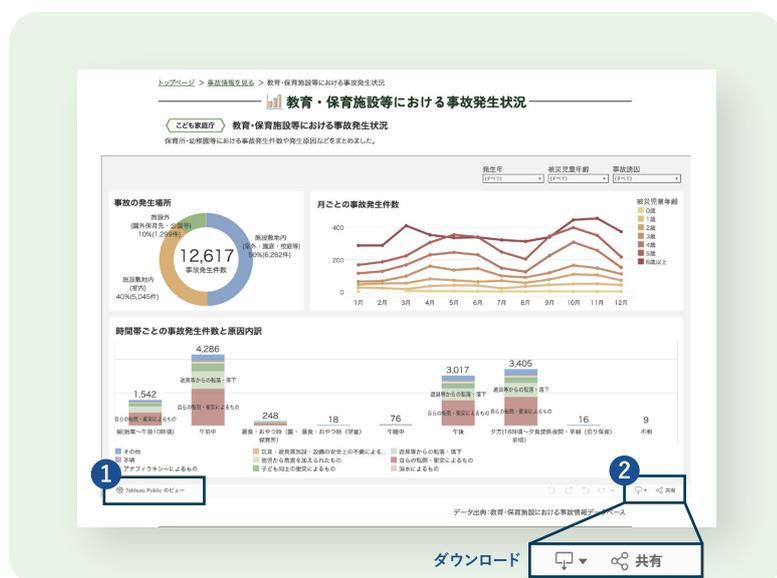
ヒヤリ・ハット事例や
統計情報等の検索・
ダウンロードが
可能です。

▶ P.10

A

事故情報を見る

事故に関する統計情報などをグラフ形式でまとめています。各グラフでは、目的や関心に応じて、条件を絞り込むことができます。
[グラフ]又は[タイトル]をクリックすると詳細画面が表示されます。



- 1 左下の[Tableau Public]をクリックすると、グラフ部分が新しいタブで拡大表示されます。
- 2 右下の[ダウンロードするフォーマットを選択]をクリックするとダウンロード形式を選択することができ、[共有]をクリックすると、表示しているグラフ等をメールやソーシャルメディアで共有できます。

こんなシーンでご利用いただけます

1 こども家庭庁 「教育・保育施設等における事故発生状況」



製品開発・改良のためのリスク分析

例：「遊具等からの転落・落下」に関するデータを基に、遊具の改良を実施。

社会課題解決のための研究

例：「時間帯ごとの事故発生件数」のデータから、子供の活動が活発になる時間帯と事故リスクの関連性を分析。

2 日本スポーツ振興センター 「学校等における事故発生状況」



通学時の交通安全対策の検討

例：「通学中」の事故発生場所別に事故要因を分析し、交通安全対策の検討や研究活動に活用。

校内の場所別安全性評価

例：「校庭」での事故を参考に、遊具や運動設備の改修を検討。

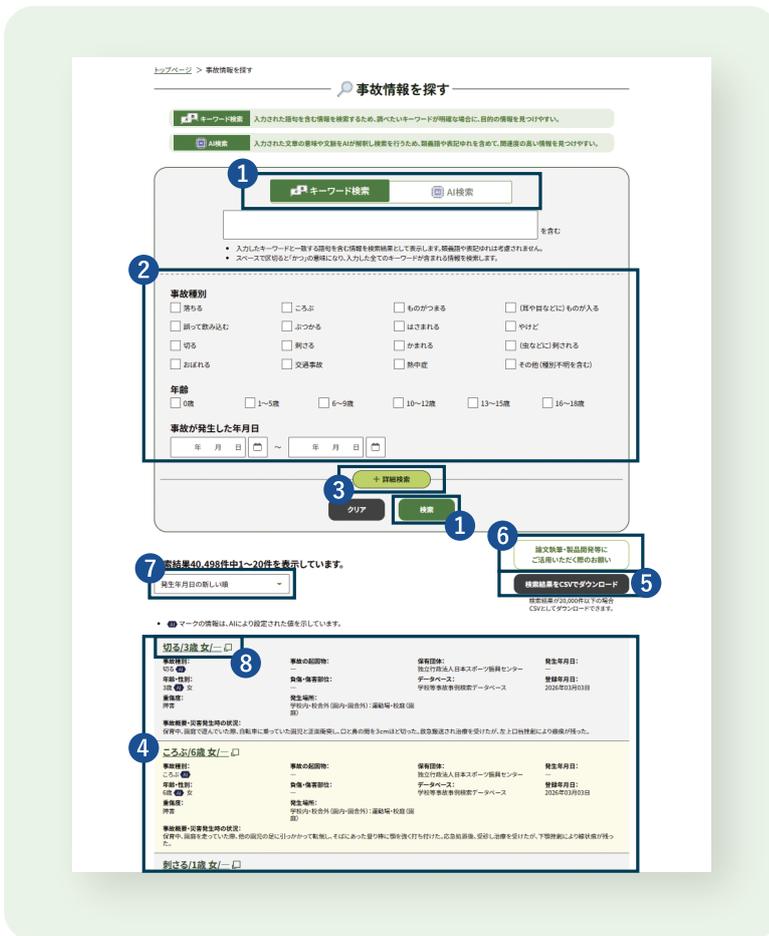
B

事故情報を探す

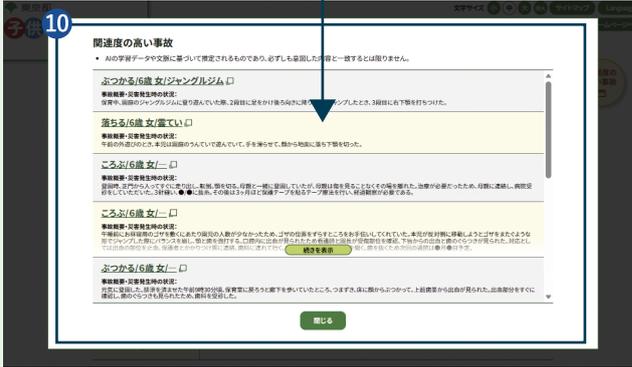
キーワード検索及びAI検索により、事故情報を検索できます。

また、事故の種別(落ちる、ころぶなど)や事故にあった子供の年齢などの条件を設定して探すことも可能です。

キーワード検索の場合

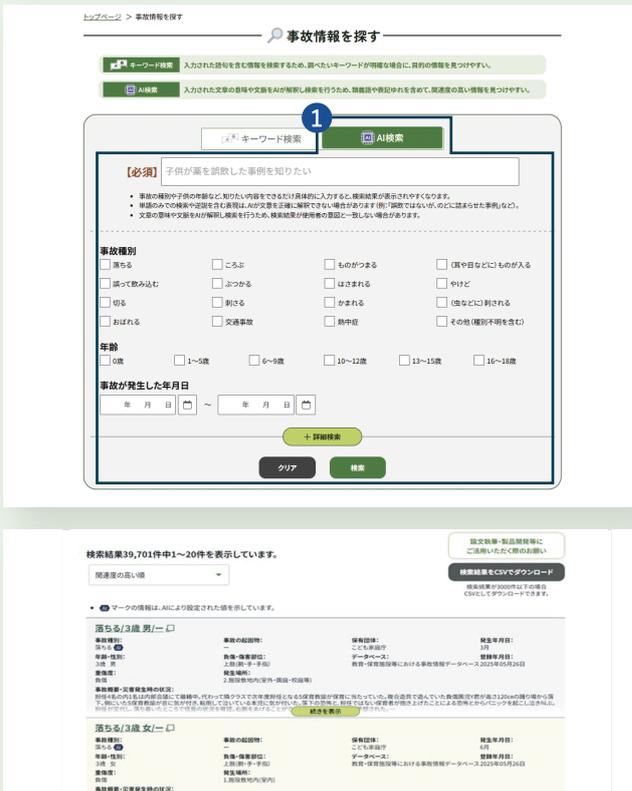


- 1 キーワード検索又はAI検索を選択してください(AI検索はP9参照)。検索条件を入力し[検索]をクリックすると、関連する事故情報が表示されます。
- 2 事故種別、年齢、事故が発生した年月日を選択し検索することもできます。
- 3 より詳細な項目で検索したい場合は[+詳細検索]をクリックし、条件を設定します。
- 4 指定した条件に一致する事故情報が一覧に表示されます。
- 5 [検索結果をCSVでダウンロード]をクリックすれば結果を保存できます。
- 6 論文執筆・製品開発等にご活用いただく際は[論文執筆・製品開発等にご活用いただく際のお願い]ボタンから注意事項をご参照ください。
- 7 [▼]で表示順を選択できます。
- 8 詳細を確認したい情報のタイトルをクリックします。



- 9 事故情報詳細が表示されます。データ保有機関ごとに、表示される項目が異なります。
- 10 画面右上の「関連度の高い事故」をクリックすると、閲覧中の事故情報に類似する情報をAIが判定し、表示します。

AI 検索の場合



- 1 自然言語でキーワードを入力し「検索」をクリックすると、AIが解析し事故情報を表示します。以降の操作はキーワード検索の場合と同様です。

※ 自然言語検索とは、会話や文章のようなキーワードで検索できる機能です。

話し言葉をそのまま入力しても、AIが文意・文脈を解釈して結果を表示します。

例: 子供が薬を誤飲した事例を知りたい

C

ニュース・論文を探す

知りたい情報のキーワードを入力して、関連するニュース記事や学术论文を検索できます。複数のサイトに掲載されている記事を一元的に検索することが可能です。



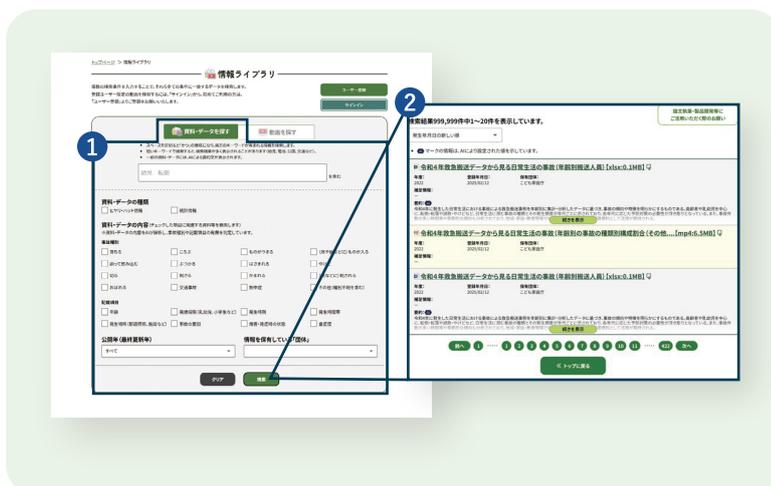
- 1 検索条件を入力し、[検索]ボタンをクリックします。
検索条件を入力しない場合は全データが検索されます。
- 2 指定した検索条件に合致するニュース・論文のリンクが一覧で表示されます。
検索結果一覧の[タイトル]をクリックすると、対象のサイトへ遷移します。
- 3 初期表示は「情報取得日の新しい順」となっています。
[▼]ボタンで表示順を選択できます。

D

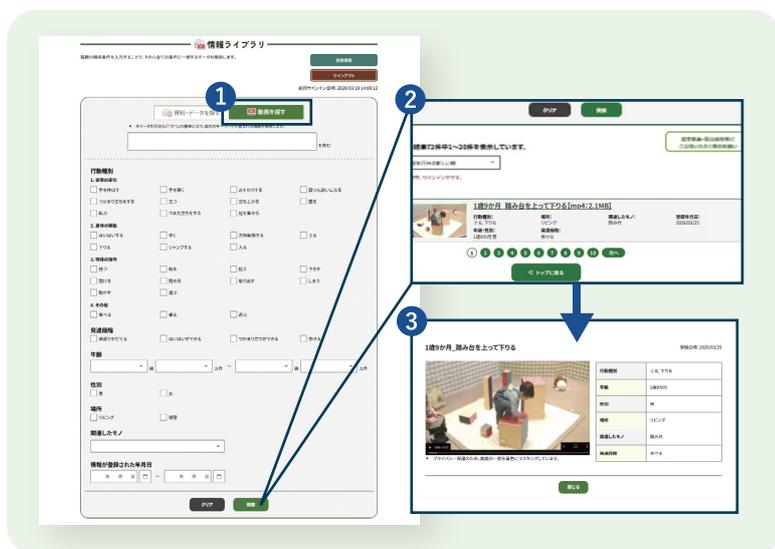
情報ライブラリ

各機関が行った調査の結果や統計データの閲覧、ダウンロードが可能です。また、ユーザー登録を行うことで、子供の行動特性を記録した動画の閲覧も可能となります。

「資料・データを探す」の場合



- 1 検索条件を入力して、[検索]ボタンをクリックします。
- 2 検索条件に一致するヒヤリ・ハット事例や統計情報、AI 要約(一部のデータは対象外)を表示します。
各ファイルはダウンロード可能です。



- ① 「動画を探す」をクリックし、検索条件を入力して、「検索」ボタンをクリックします。
 - ② 検索結果が一覧で表示されます。
 - ③ 動画のタイトルをクリックすると、小画面が開き、動画を再生することができます。
- ※動画データのダウンロードはできません。

ユーザー登録・退会について

「情報ライブラリ」画面上部の[ユーザー登録]をクリックすると、登録の申請画面に遷移します。登録には、所属の情報やメールアドレス等が必要となります。なお、利用可能になるまで数日かかる場合があります。



サインイン

- ① ユーザー登録完了通知が届いた後、サインインが可能となります。登録したメールアドレスと、メールでお送りする初期パスワードを入力してください。初期サインイン後にパスワードの変更を求められるため、新しいパスワードを設定ください。

登録情報の参照

- ② サインインしている状態では、「サインイン」ボタンが「登録情報」に変更されます。「登録ユーザー情報」画面では、登録情報の変更や、退会手続きをすることができます。

製品企画や 開発等での 活用



大人による使用を前提とした設計では想定を超えた行動をする子供の事故を防ぎきれない

規格を満たしていても、事故につながるリスクを見落としてしまう可能性が残る

他社の事故事例にアクセスする術がない

過去の事故データをもとにリスクを見える化し、安全性を重視した製品設計や開発プロセスの改善が可能

こんなケースで
ご活用
いただけます

設計段階でのリスク予測

- 従来手法 社内テスト + 規格適合確認
- ↓
- 課題 予期しない使われ方をされた場合、事故リスクを十分に把握できない
- ↓
- データベースの活用 製品の安全性向上に向けて、様々な事故事例・パターンを分析



例

類似事故事例の検索

類似商品の事故情報について、「事故情報を探す」においてキーワードを設定し検索する。

キーワード
玩具 を含む

年齢別・使用シーン別の危険要因の把握

「事故情報を探す」において製品や年齢などの状況を入力し該当する事故事例や要因を把握する。

- はさまれる ぶつかる
- 1~5歳

事故につながる使用方法等の把握

「事故情報を探す」において事故発生時の詳細な状況を調べ、発生までの経緯を整理する。

事故原因 5歳の娘がレジスターのおもちゃで遊ん…

ターゲット年齢の適正化

従来手法

ペルソナについての身体的特徴等から予測

課題

予測に係る参考データが不足している場合、安全設計が不十分となる可能性がある

データベースの活用

製品の安全性向上に向けて、様々な事故事例・パターンを分析



例

対象年齢に応じた製品開発

「事故情報を探す」において年齢ごとのリスクを把握し、対象年齢に応じた適切な安全対策を施した製品開発を行う。



事例を踏まえた年齢別注意表示の検討

「事故情報を探す」において年齢別に検索し、事故につながりやすい使われ方など、事例を踏まえた具体的な注意事項を製品パッケージ等に反映する。



業界別の活用パターン

玩具

検索キーワード 感電、誤飲

- ・ 事故発生要因となる部品の特定
- ・ 構造的な危険箇所の把握・改善

ベビー用品

検索キーワード 窒息、転落

- ・ 月齢に応じた安全機能の検討
- ・ 保護者向け注意喚起の内容検討

遊具、公園設備

検索キーワード 転落、ぶつかる

- ・ 公園遊具の安全性評価
- ・ 定期点検項目の検討

家具・インテリア

検索キーワード はさまれる、衝突

- ・ ドアストッパーによる指挟み防止
- ・ テーブル角の面取り加工等の改良

こちらもお役立てください！

東京都子どもセーフティプロジェクト

～「目を離さない」前にできること～

子供の事故予防と安全対策に役立つ情報を発信しています



Safe Kids

- こどものケガを減らすためにみんなをつなぐプラットフォーム

製品による子供のケガや事故を防ぐため、消費者・企業・行政などが情報交流を行うことができるウェブサイトです



東京の安全・安心実現ポータル

「安全・安心」をテーマとする製品や技術の開発・改良及び普及促進支援を行っています。



東京くらしWEB

消費生活に関わる東京都の情報サイトです。ヒヤリ・ハット調査、商品等の安全に関する情報、相談窓口の案内などが掲載されています



子供向けイベントの企画・運営での活用



大人の想定を上回る子供の行動に対して事故リスクの管理が難しい

他社のイベントでの事故事例を認知できず、同様の事故を起こす恐れがある

新規のイベントを企画する際、事前に確認すべきリスクが明確になっていない

過去の事故事例を踏まえて、リスクアセスメントを効率化し、安全かつ円滑なイベント運営が可能

こんなケースで
ご活用
いただけます

イベント準備段階でのリスク予測

- 従来手法 自社イベントを参考に検討する
- ↓
- 課題 新規イベントに際し、これまで自社では経験したことのない事故が起きる恐れがある
- ↓
- データベースの活用 イベントの内容に応じた事故予防策を講じるため、様々な事故事例・パターンを分析



例

年齢別・使用シーン別の危険要因の把握

イベント関連のキーワードで検索することで、年齢に応じた事故の内容や要因を把握し、分析する。

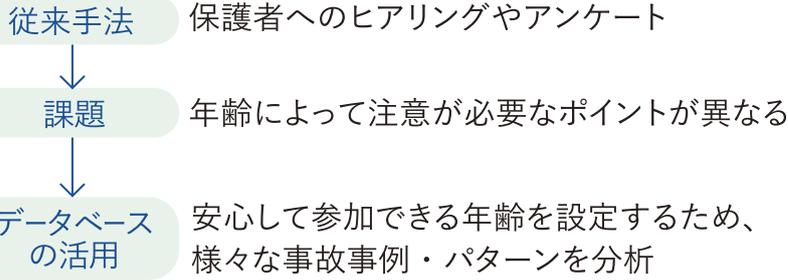
キーワード
 を含む
 落ちる 1~5歳

事故が起こるまでの経緯の把握

「事故情報を探す」において事故発生の経緯や発生時の状況を確認し、開催前に想定すべきリスクを整理する。

事故原因 | 当日は特別なイベントがある日だった。児…

イベントの対象年齢の設定



例

イベント内容に応じたリスク管理

「事故情報を探す」において、イベントで利用する物品等が要因となった事故事例を調べ、関わった子供の年齢や発生状況等を把握する。

キーワード

はさみ

を含む

0歳 1~5歳 6~9歳

事例等を踏まえた年齢別注意事項の検討

「事故情報を見る」等から統計情報や事故事例を抽出・編集し、対象年齢ごとの注意事項の整理や保護者への説明資料の作成に活用する。



イベント種別ごとの活用パターン

スポーツ・運動系

検索キーワード

転倒、転落、ぶつかる

イベント例：アスレチック

事故事例：トランポリンで骨折

鑑賞型（映画等）

検索キーワード

転倒、ぶつかる

イベント例：子供向け映画上映会

事故事例：鑑賞後、立ち上がる際にバランスを崩し転倒

体験型・ワークショップ

検索キーワード

切る、刺さる、やけど

イベント例：食育イベント

事故事例：料理体験会において作業中に火傷

モノづくり系

検索キーワード

切る、刺さる

イベント例：クラフトアクセサリ

事故事例：工作时、はさみの刃を刺し負傷

こちらもお役立てください！

子供の事故予防ハンドブック | 東京都こどもセーフティプロジェクト

東京都各局における子供の事故予防についての広報内容を取りまとめ、デジタルブックを制作しました。子供の成長発達段階ごとに、起こりやすい事故とその予防策についてまとめられています



東京の安全・安心実現ポータル

「安全・安心」をテーマとする製品や技術の開発・改良及び普及促進支援を行っています。ぜひイベント企画の際にお役立てください



子供の事故予防に係る 研究現場での活用



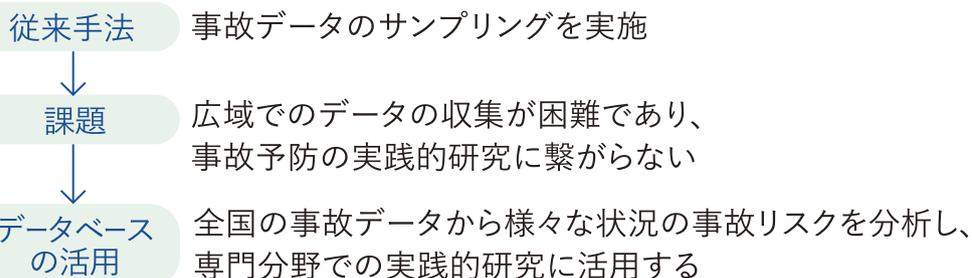
子供の行動特性や事故が起きる危険要素の情報が不足

全国的な事故データの収集に時間がかかり、事故予防に関する研究の設計や評価が困難

全国規模の事故データを一元的に検索し、
研究の設計や評価の際に効率的な情報収集が可能

こんなケースで
ご活用
いただけます

事故リスクの特定・分析



例

研究テーマに関するキーワードを検索することで、事故にあった子供の年齢や全国規模のデータに基づく研究の設計や評価が可能

キーワード

を含む

ぶつかる 1~5歳

→

事故原因

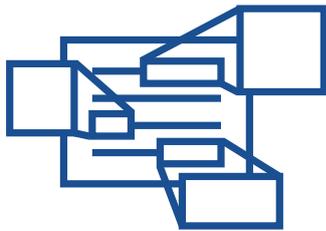
本児が園庭で園児数名と鬼ごっこをして遊んでいた際、滑り台から体勢を崩し、滑り落ちた後、左…

その他の活用例

事故データの分析を通じて、近年増加している事故の傾向や要因を類推し、実践的研究に繋げていく。

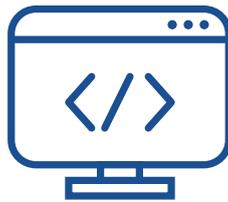
ビッグデータとしての活用

事故情報の
詳細記述を
テキストマイニング
で分析し、
事故の傾向や
要因を抽出



啓発プログラムの開発

教育・保育等の
現場で発生する
事故の傾向を
データ分析し、
啓発プログラムを
開発



社会的背景の分析

研究発表や
論文執筆時の
社会的背景の
整理・分析に活用



掲載データの概要

本データベースには、事故の概要のほか、年齢、性別、重症度、発生要因などの情報が掲載されています。これらのデータは、CSV形式でダウンロードすることが可能です。(P8⁵参照)

データ項目の例

・こども家庭庁 教育・保育施設等における事故発生状況

事故概要

認可・
認可外施設

施設・
事業所種別

発生月

発生時間帯

クラス
・年齢

クラス
・人数

等

・消費者庁 事故情報データバンクシステム

事故概要

発生年

都道府県

重症度

事故起因物

措置内容

事故
調査結果

等

子供の目線で危険をハント 「事故予防体験シミュレーター」

本データベースを活用してサービス開発を行った株式会社VLEAP代表取締役CEOの新保正悟氏に、データベースの活用方法や活用のメリットなどについてお話を伺いました。

株式会社VLEAP/代表取締役CEO
新保正悟氏



1 企業概要・サービスについて教えてください。

株式会社VLEAPはVR・メタバース事業を中心に、軽量モデルの作成等の技術を活かしたWEB3D事業を展開しています。特別な機器を必要とせず、スマートフォンやパソコンのブラウザ上でVR空間を体験できるサービスが特徴です。

2 本データベースを活用してどのようなサービスを開発していますか？

「生後6か月～6歳児の目線で、生活の中に潜む事故原因を探しながら学ぶ」をテーマに、3D安全教育コンテンツを開発しました。データベースに豊富に登録された実際の事故事例を基に、事故が発生しやすい状況を再現したシミュレーションモデルで、ゲーム要素も取り入れ、楽しみながら事故のリスクや予防策を学べる仕組みです。専門家の協

力を得て、子供の視力や視野角を再現しています。子供は大人ほど視力や視野が発達していないため、大人なら気づく危険も子供の目線では見落としやすいことがあります。

3 サービス開発の中で、本データベースをどのように活用しましたか？

子供の事故については知識がなかったため、まず「事故情報を見る」で基礎的な情報を収集し、詳細な事故事例は「事故情報を探す」で調べました。

「事故情報を見る」では、どのような製品事故が多いのかをグラフで確認でき、開発テーマの決定に役立ちました。

具体的な事故事例の選定やサービスへの反映には「事故情報を探す」を主に活用し、6歳児までの事故事例を収集しました。「キッチン」というキーワードでは約100件のデータが集まり、起こりやすい事故の傾向を把握でき



子供の目線で危険をハント

事故予防体験シミュレーター



ましたが、「公園」では1,000件を超えるため、シミュレーションモデルで再現しやすい事故種別に絞って検索し、事故発生時の状況が詳しく分かる事例を中心にデータを制作しました。

キミの目には何が映っているんだろう

事故予防体験シミュレーターでは、6歳までの目線で生活の中に潜む事故の原因を探索しながら学ぶ3Dコンテンツです。

コンテンツをプレイ



事故予防体験シミュレーター TOP画面

4 実際に利用してみての感想や、データ利活用で得られた成果を教えてください。

全体的に使いやすいデータベースだと感じました。「事故情報を探す」では、AND検索ができ、必要な情報を効率的に絞り込める点が便利です。**大手企業は自社でデータを蓄積し商品開発に活用していますが、スタートアップにはそのようなデータが少ないため、このデータベースは大きな助けになります。**事故の詳細情報が記載されているため、**子供の事故についての知識がない事業者でも、初めて商品やサービスを作る際に活用できると感じました。**また、情報取得元が公的機関や報道機関など、**信頼性の高いデータで構成されている点も安心感**があります。AIの活用が進む中、誤情報が広まりやすい環境ですが、信頼できる情報源は開発者にとって重要だと感じています。

5 今後、どのような場面やサービス開発でデータベースを活用できそうだと感じますか？

今後は、子供向け用品の製造・販売を行う事業者様との連携に挑戦してみたいですね。本データベースと事業者様のご知見などを融合したシミュレーションモデルの開発に取り組み、子供が安心してチャレンジできる社会づくりに貢献できたらと思います。また、今回のサービスを、将来的には学校や地域の安全対策にも活用し、日本の安全教育のモデルとして海外展開できたら素敵だと思っています。

子供の目線で危険をハント

「事故予防体験シミュレーター」は
こちらから体験いただけます。



<https://kidsview-hunt-sim.metro.tokyo.lg.jp/>

開発テーマ 6歳児目線の3D安全教育コンテンツを開発

1 事故情報を見る(基礎分析)
製品事故の傾向をグラフで把握し、開発テーマ決定に活用

2 事故情報を探す(事例収集)
6歳児までの具体的な事故事例を収集し、サービスに反映

活用メリット

情報蓄積の少ない
企業でも活用可能

事故に関する知識がなくても
安全配慮型の商品・サービス
の開発が可能

行政機関等の信頼性の高い
事故データを活用可能

編集・発行／東京都子供政策連携室
企画調整部 企画調整課

〒163-8001

東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03(5388)3812

※掲載の情報は令和8年3月現在のものです。

※イラスト・画像はすべてイメージです。

※本冊子掲載のイラスト・図の無断複製・転載・複写・借用などは著作権法上の例外を除き禁じます。